

第 7 章

地域別構想

- 7-1 考え方
- 7-2 人吉・大村地区
- 7-3 藍田・田野地区
- 7-4 大畑・矢岳地区
- 7-5 西瀬地区
- 7-6 中原地区

7-1 考え方

7-1-1 土地利用の基本方針

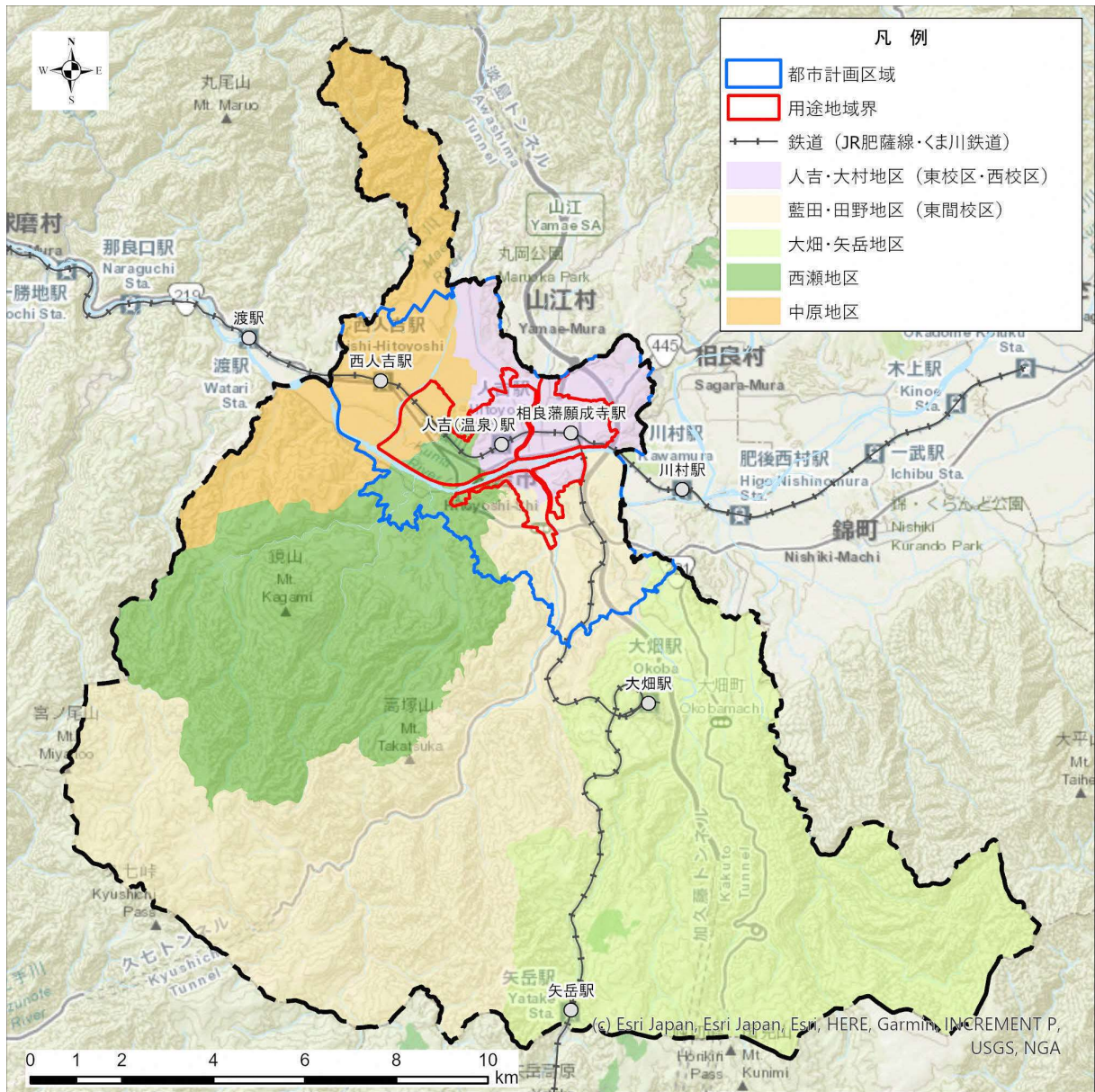


図 7-1 人吉市都市計画マスタープラン地域別計画地域区分

7-2 人吉・大村地区

7-2-1 地勢

相良村、山江村と接する市北東部に位置し、山田川と市域北部の万江川、球磨川の両岸を有する地域です。市街地を形成していますが村山台地と城山の風致地区を中心に近郊の緑、郊外には農地も広がっています。

7-2-2 特徴

本市の中心市街地の主要部分を含む市の北東部に位置し、東校区、西校区の全域にわたります。JR 人吉駅、産交バスターミナルから人吉 IC までの交通拠点、村山公園、人吉城跡公園をはじめ学校などの公共公益施設、病院、金融機関等が集積しています。

7-2-3 地域の主要テーマ

本市の経済、観光、金融、交通の中心であるばかりでなく、定住自立圏でもある人吉球磨、医療圏域を共にする県際地域の重心部としての拠点性等が求められています。特に中心市街地は被災以前から商業地としての吸引力が低下していましたが、水害を機に人吉市復興まちづくり計画における人吉市まちなかグランドデザインに沿った、来訪者の回遊性・散策性をもった賑わいの創出や暮らしの再生を進めます。今次水害規模への対策は勿論、慢性的な水害常襲地帯の解消にも大きな課題があります。人吉球磨圏域が誇る歴史・文化の心の拠り所である人吉城跡や信仰の対象である青井阿蘇神社をはじめ多くの遺産、遺構を有し、古代から近世の川下り、鉄道遺産まで、地域の歴史を体感できるエリアでもあり、地域振興や交流促進のテーマの1つとされています。

当エリアの北部郊外には優良な農地がひろがっていますが、本市では貴重なまとまった平野部であり、人吉 IC など交通の要衝であることから今後の開発等の候補地として、地域農業の将来展望等を思慮しながら都市の均衡ある発展をめざす必要があります。特に、大規模な圃場の再整備も予定されており、市街化と農地の計画的な土地利用が大きな課題となっています。

7-2-4 まちづくりのテーマ

～活気と歴史にあふれ、安心して暮らせる地域へ～

- ◇人吉市まちなかグランドデザインに沿って来訪者が回遊・散策できる環境を創造します。
- ◇安全で、まちと一体となった河川環境を創造します。
- ◇コンパクト&ネットワークでまちの賑わいを取り戻します。
- ◇市街化と農地の両立で均衡ある発展を目指します。
- ◇歴史と文化が暮らしに溶け込むまちを目指します。

7-2-5 まちづくりの方針

- ☐居心地が良く歩きたくなるウォーカブルなまちづくり
- ☐来訪者が回遊し、散策を楽しむための駐車場等の適切な配置
- ☐北地区の農地について将来を見据えた再整備を実施
- ☐人吉 IC 周辺の開発について市の発展方向の中で検討
- ☐ヒト・モノを誘導できる賑わいあるエリアの創出
- ☐コンパクトな中心と地域拠点のネットワークづくり
- ☐かわまちづくりによる川を生かした市街地の実現
- ☐今次水害規模への対策と慢性的都市型水害の解消等
- ☐新たなまちづくりを支える歴史、文化の継承

7-3 藍田・田野地区

7-3-1 地勢

鹿児島県、錦町と接する本市の東部、南部に位置し、球磨川の市最上流にもあたります。胸川に沿って走る国道 267 号沿いに集落と農地、下流部や国道 219 号沿いに市街地を形成し、上流部の木地屋、大塚、田野地区等には豊かな森林が広がります。

7-3-2 特徴

新市庁舎、県振興局、警察署といった行政機関が集積、国道 219 号、267 号といった広域幹線を軸に郊外や農村集落を形成し、その周辺に田園地帯、その周りを山間部が取り巻くといった本市を代表する地勢にあります。

7-3-3 地域の主要テーマ

市役所、県振興局、警察署等の官公庁が集積するエリアで、国道 219 号、267 号という 2 本の国道と新たに設置された人吉球磨 SIC を軸に広域的な交流の盛んな地域となっています。外環状である 219 号沿いはロードサイドの店舗が点在し、その北側は中心市街地から連続した市街地を形成していますが、近年、特に 219 号周辺の農地の宅地化が著しく、用途の適合性についても検討が求まられています。また、総合的な新市庁舎が開設し、隣接する県振興局、人吉医療センターと共に、昼間人口が明らかに集中する重点地域を形成し、交通量調査等を踏まえた新たな道路ネットワーク等の検討が課題となっています。周辺の山間部については少子高齢化による人口減少によって自治会や集落のコミュニティも弱体化しており、暮らしを支える移動手段、農林業の担い手、災害への備え等多くの分野で課題解決を図る必要があります。

7-3-4 まちづくりのテーマ

～地域拠点と交流が新たな時代を拓く持続可能な地域へ～

- ◇新市庁舎を中心にした新たなまちづくりを目指します。
- ◇地域資源を活用し、地域内外の交流を促進します。
- ◇校区による地域コミュニティの再構築をめざします。

7-3-5 まちづくりの方針

- 新市庁舎と広域連携を見据えたネットワークの検討
- 胸川、布の滝、田野等で交流を支える地域づくり
- 農業と暮らしの両立する持続可能な集落環境整備
- 地域福祉分野も含めた地域交通の確立
- 自然の恵みの享受と自然災害への備えによるまちづくり
- 校区（エリア）による地域コミュニティの再構築

7-4 大畑・矢岳地区

7-4-1 地勢

宮崎県、錦町と接する本市の南東部に位置し、鳩胸川と小さで川沿いに農地や集落が広がり、国道 221 号や県道上漆田東間下町線、大畑停車場線、大畑西線沿いに集落が連坦しています。近代産業遺産群に選定されている JR 肥薩線の中で、全国でも稀なループ線とスイッチバックを有する大畑駅、D51 条機関車の静態保存が人気の矢岳駅といった山線や人吉梅園、大野溪谷等の自然環境にも恵まれています。

7-4-2 特徴

本市南東部に位置し、古くから街道沿いとして栄え、現在も国道 221 号を軸に大畑小学校、第三中学校等を擁する（独自の）生活圏を形成しています。平野部、山間部と農村部に集落等が点在し、現在、不通になっている JR 肥薩線や中核工業団地、人吉梅園など産業関連施設も存在します。

7-4-3 地域の主要テーマ

国道 221 号、県道、JR 肥薩線を軸に、隣接する錦町、宮崎県、鹿児島県との交流が盛んな地域であり、中核工業団地や繁殖牧場、人吉梅園、豊かな山林や農地等を背景に本市産業を支えている地域でもあります。他の地区とは比較にならない結びつきの強い保、小、中連携した地域であり、学校、地域が一体となった地域の将来像を描くことが最も重要であり、一つの独立した生活拠点としてのエリア像が求められます。具体には、将来にわたり安心して暮らしていくうえで必要な生活サービスを受けられる環境を維持していくため、「小さな拠点づくり」等の取組みが想定されます。また、交通空白地帯は、地域福祉的な観点も含めた移動手段、交通の確保が喫緊の課題です。JR 肥薩線についても、再生に向けて国、県、関係自治体が JR と協議を進めている状況であり、沿線地区として地域拠点ともいえる大畑駅、矢岳駅の美化や活用を図るなど、駅の美化や活用、市のリードオフマンとしてのこれまでの実績、牽引力に期待されています。山間部における集落等については、インフラの環境整備などさらなる充実が求められる地域もあり、美しい里山を守る暮らしの確保と持続可能な点からも解決する必要があります。

7-4-4 まちづくりのテーマ

～豊かな自然とコミュニティが息づく生活拠点地域へ～

- ◇地域資源が紡ぎ出す広域交流拠点を目指します。
- ◇学区を軸とした持続可能な生活拠点づくりを目指します。
- ◇農林業と暮らしが溶け込む環境保全を目指します。
- ◇大畑駅と矢岳駅の復活（JR 肥薩線の再生）を目指します。

7-4-5 まちづくりの方針

- ☐ 周辺集落地域における快適な住環境の確保
- ☐ 大畑駅、矢岳駅、沿線の美化、保全への取組み
- ☐ 学校、地域が一体となった生活拠点づくり
- ☐ 農業と暮らしが両立する持続可能な集落環境整備
- ☐ 地域福祉分野も含めた地域交通の確立
- ☐ 自然の恵みの享受と自然災害への備えによるまちづくり
- ☐ 大畑駅と矢岳駅を活かしたまちづくり

7-5 西瀬地区

7-5-1 地勢

本市の南西部で球磨村と隣接し、市域におけるほぼ中央の球磨川両岸に市街地を形成しており、その周辺は農地も広がっています。南部は鹿目川、永野川、草津川の水源となる森林が広がり、鹿目地区や上戸越地区等の山間部にも集落が広がり、鹿目の滝等の景勝地も存在しています。

7-5-2 特徴

本市南西部に位置し、西瀬校区の全域にわたります。球磨川の右岸は、国道 219 号や街路沿いにロードサイド型の商業地が発展し、周辺に文化・スポーツ施設を含む郊外型の住宅地を形成しています。球磨川左岸は拠点である西瀬小学校、コミュニティセンターがあるものの、田園地帯、山間部が広がり、集落等を形成しています。

7-5-3 地域の主要テーマ

西瀬地区も今次水害での被害が甚大であった地域で、球磨川本川の両岸、支川、水路等に至る治水対策を講じる必要があり、特に内水の問題は一時避難場所、避難路の設定、整備等といった防災力の向上についても大きく関係しています。エリアの国道 219 号沿いはロードサイドを形成しており、その周辺は宅地化の進んだ農住混合であったが被災後、農地の状況がかなり変化しているのでそこも含めた地域の将来像を定めて、防災力の高い市街地の形成を目指す必要があります。また、山間地や周辺地域については、環境保全の観点からも農林業と暮らしが両立する持続可能な集落環境の保持、向上に努めます。以前から交通空白地帯の是正が課題であった永野地区をはじめ移動手段の確保について、福祉的な観点も含め解決を図る必要があります。この地区の球磨川左岸は支川も多く、景勝地鹿目の滝等の自然資源も豊かであり、フットパス事業などのポテンシャルもあり、自然災害への備えと共に、自然の恵みを享受する取組みなどの地域の振興につなげます。

7-5-4 まちづくりのテーマ

～市街部と里山が織りなす安全で、均衡ある地域へ～

- ◇治水安全度の向上と安全な避難体制を確保します。
- ◇地域の歴史・文化に基づく豊かな暮らしをめざします。
- ◇商工業と農林業の均衡ある発展をめざします。

7-5-5 まちづくりの方針

- 球磨川本川、永野川、鹿目川等の治水対策の強化
- 避難場所、避難路、内水対策を含めた防災力の向上
- 鹿目の滝等自然景勝や浄瑠璃で高名な河合又五郎屋敷など地域の歴史の掘り起こしによる誇りの醸成と交流興し
- 農業と暮らしの両立する持続可能な集落環境整備
- 地域福祉分野も含めた地域交通の確立
- 自然の恵みの享受と自然災害への備えによるまちづくり

7-6 中原地区

7-6-1 地勢

本市の北西部に位置し、球磨村と隣接をしています。万江川、馬氷川が流れ込む市域の球磨川の最下流部にあたり、球磨川両岸、北部の下原田地区、上原田台地に農地が広がっています。国道 219 号と外環状線である通称農免道路を軸に宅地化が進み、球磨川左岸の県道人吉水俣線沿いにも集落等が存在しています。

7-6-2 特徴

本市北西部に位置し、中原校区の全域にわたります。旧道と呼ばれる現在の市道祇園堂栗林線から国道 219 号沿線に校区の人口重心が移り、西人吉駅周辺やロードサイド型の商店など家屋が連坦し、市街化により宅地等も広がっています。周辺部は農地が広がる田園地帯で、多くが農住混合地域ですが、市域球磨川の最下流にあたり下水道の終末処理場等も整備されています。

7-6-3 地域の主要テーマ

中原地区は万江川との合流地点周辺をはじめ球磨川の両岸について、治水対策および避難等の防災面を強化する場所が広範に存在し、特に中神城本地区と大柿地区には遊水地が計画されており、それらを考慮したまちづくりを進めます。近年、外環状線である国道 219 号と市道上林中神線（農免道路）を軸に郊外型の市街化が進んでおり、将来にわたる発展方向を含め用途指定等の検討が新たな課題となっています。一方、農業も盛んな地域であり北地区の農地の再整備や遊水地の代替農地等による下支えが重要になっており、将来にわたって農地と宅地の均衡ある発展が望まれます。現在運休中の肥薩線の西人吉駅、路線バス、まめバス等が地域の交通を支えてきましたが、今後は、さらに福祉施策としての移動手段の確保と暮らしの持続可能性が図られる必要があります。中原地区は球磨村に隣接し、球磨村からの移住増を含めさらに関係の強い場所となり、県道人吉水俣線の改良や球磨川の治水対策、バス路線や鉄道等の交通体系、あるいは共通する自然等をテーマにした交流事業での連携や広域的観点等、将来を見据えた展開も想定していきます。

7-6-4 まちづくりのテーマ

～開発と保全による安全で、新たな未来をめざす地域へ～

- ◇農地と居住地域の均衡ある発展をめざします。
- ◇治水安全度の向上と災害拠点の整備に取り組めます。
- ◇遊水地の整備と地域コミュニティの存続を図ります。

7-6-5 まちづくりの方針

- 遊水地の整備と活用の方針
- 避難場所、避難路、内水対策を含めた防災力の向上
- 北地区の農地再整備と遊水地周辺農地の環境整備等
- 農業と暮らしの両立する持続可能な集落環境整備
- 地域福祉分野も含めた地域交通の確立
- 自然の恵みの享受と自然災害への備えによるまちづくり